

令和 6 年度 多摩市文化芸術振興計画有識者会議 第 6 回 要点録

開催日時・場所	令和 7 年 1 月 24 日(金) 午後 7:00～午後 8:45 ベルブ永山 3 階消費生活センター講座室	
参加委員	参加委員 10 名 伊藤委員、青木委員、岩佐委員、沖田委員、柏井委員、高橋委員、春田委員、三浦委員、横溝委員、米屋委員	
出席職員	くらしと文化部長、教育部長、文化・生涯学習推進課長、事務局 2 名	
主な内容	次第 1	素案(案)への意見と対応
	次第 2	原案の確認
	次第 3	名称案の確認
	次第 4	今後のスケジュール
議題	主な意見（●事務局、◎会長、○副会長、◇委員）	
次第 1 素案(案)への意見と 対応	◎会長：議事録の修正については問題ないか。 前回の意見について確認、全委員、了承 ●事務局：素案（案）への意見と対応について説明を行った。 ◎会長：経営会議からの意見対応としては、削除して対応したものが多い。有識者会議からの意見対応は概ね修正反映されており、ポイントになるのは前回意見が多かった体系の組み換えで、かなり修正が入っている。細かい点は次第 2 で確認する。パブリックコメントについては、本計画についてというよりも部活動の地域移行に関する内容が主だった。素案（案）への意見と対応について、質問や意見があればいただきたい。 意見なし	
次第 2 原案の確認	●事務局：原案について説明を行った。 ◎会長：原案について皆さんの考えを確認していきたい。第 1 章の「計画策定にあたって」の部分が一部カットされているが、経営会議の意見を踏まえて前回の内容を整理して見やすくしている。計画期間についても 10 年の間に社会は変化していくのではないかという意見を踏まえ、スケジュールの中に中間見直しの記述が明記された。来年度より発足する文化芸術推進委員会の中で進捗状況を確認しながら、計画の見直しも適宜議論に取り上げられていくのではないと思う。SDGs との関係については、現状と課題の部分から施策ページに移動している。ビジョンの後に入っていた現状と課題を第 2 章の「本市における文化芸術に関する特徴」の最後に入れた。原案及び概要版についてご意見等はあるか。 ◇委員：概要版は大変分かりやすい。全体を見て感じた事は、施策 D 取組にある「文化芸術を通した中高大学生と地域の交流の促進」について、この計画が学生に限らず、若い世代も対象としているので、「中高大学生」の中に「若	

者」という言葉を入れた方が良いのではないか。

●事務局：原案 p.28 施策 D で細かい説明をしている。元々高校生ヒアリングから出された意見のため、学生を対象としていた。若者の交流も含めるのであれば、取組の本文に追加することを検討する。

◎会長：今回、重点取組みを施策の冒頭から位置を変えた。前回の議論で、アーティスト、クリエイターという言葉をはっきり書いたほうが良い、「誰もが」と書くと抽象的になるという意見があり、施策 B に反映された。施策 C は子供を対象にした。施策 D に重点取組みはなかったが、今回追加した。計画の策定にあたっての中心に、中間支援機能の強化を入れ込んでいる。

○副会長：施策 C の後に掲載されている SDGs のコラムはページの都合であることは理解できるが、できれば施策全体の後の方が良いと思った。

●事務局：今後、印刷のデザインの中で調整する。

◎会長：SDGs は全ての施策に関わる内容なので、できれば施策ページの後に入れてもらいたい。

◎会長：施策 A の「誰もが文化芸術に触れられる支援」の説明文の中で、多文化交流の表現が入っているのは良いと思う。ただし、障がい者の記述が「身体的要因」という表現しかないので、障がい者全体を含めた要素がもう少し入っても良いのではないか。

◇委員：同箇所について、「身体的要因」だけでなく、「心身」という表現も入っていた方が良いのではないか。

○副会長：身体的要因だけではないと思うが、「障がいの有無にかかわらず」という表現にすると、障害者手帳を持っている方だけという意味に思われる可能性があるので、それを避けるためにこのような表現にしたのかと推測できる。例えば、高齢になってくると、外出する際に様々な障壁が出てくる。病後の人も色々と障壁がある。障がい者だけでなく、もっと広い概念で読めるようにした方が良いかと思った。

◎会長：「心身」という表現だとかなり印象が強くなってしまうので、副会長の意見も踏まえて、どう表現するか検討してほしい。障がい者に限定すると福祉との調整が必要になるので、担当と相談して考えてほしい。高齢者等も含めて事務局で表現を検討してほしい。

◇委員：「多摩市民文化祭」は原案 p.11 は 2) 市内各所における文化活動の状況として記述してあるが、市主催の市制施行後から長らく実施している文化

	施策として、p.5 の(1)まちのなりたちと、文化芸術の営みの中でも、触れた方がよいのではないかな。 ◎会長：概要版について、原案をまとめたものとして庁内向け説明資料として作られていることもあり、市民向けにするには少し硬い印象がある。今春以降、計画を市民に周知していくためには、どのような見せ方にすると良いか、ご意見等あるか。 ◇委員：今は施策 A~D を一体で表現しているが、例えば、各施策でそれぞれ届けたい対象がいるはずなので、それが分かるようなデザインを施策ごとに考えた方がよいと思った。 ◎会長：今後文化芸術推進委員会等で議論を進めていけば良い内容だとは思いますが、見開き 1 面で各施策を詳しく説明するのもよいのではないかな。 ◇委員：なぜ文化芸術が市民に大切なのか、この計画を推進する必要があるのか、原案の中ではきちんと記述があるが、概要版ではあまり触れられていないので、そこは説明した方がよりよいのではないかな。 ◎会長：市民向けのわかりやすい版では必要かもしれない。 ◇委員：概要版はネットで見る機会が多いと思う。PDF の A4 版だと印刷して見るものという印象がある。横画面で一区切りごとに見せるとか、Web サイト用の見え方も工夫できると良い。 ◇委員：スマートフォンでの見え方も工夫できると良い。
次第 3 名称案の確認	●事務局：計画名称案の 3 案について説明を行った。 ◎会長：事務局からの説明について、ご意見等あるか。 ◇委員：個人的には 2 つ目の案が良いと思う。条例と同様に「みんなの」、「プラン」という親しみやすい表現がある方がよい。2 つ目の案は説明なしに理解できて、漢字が少ないのがよい。ただ、副題は長すぎると思うので、何とかした方がよいと思う。もっと一言で分かりやすく表現したい。 ◇委員：確かに副題が長いと思う。「振興」の部分は、※の注記の意図は理解できるが、文化芸術を振興することより、文化芸術を通して市民の暮らしが良くなり交流が生まれる、くらしを豊かにするための計画であるというニュアンスが副題も含めて伝わる方がよいと思った。 ◇委員：例えば、「振興」の部分を「まちづくり」に変えてはどうか。「多摩市子どもみらい会議」の中でも、多様なつながりが必要だとか、世代間の交

流が必要等の意見があった。子どもたちは大人よりも高い次元で考えていることが分かったので、「まちづくり」の表現の方が相応しいと思った。

○副会長：「まちづくり」という表現を使うと行政分野が変わってしまうのではないか。今の話を踏まえると、「文化芸術によって未来をひらく」とか「未来をつくる」というイメージがあると、子どもの意見を反映できるのではないか。

◎会長：条例の中で「文化芸術の振興に係る計画」と明確に記述があるので、名称から「振興」を外すことは難しいかもしれない。副題の方に「まちづくり」や「未来」、「人々のつながり」という要素を入れることはできるのではないか。ビジョンでは過不足ないよう全て盛り込んでいるが、計画名称はもう少し端的にわかりやすい方が良いと思う。

◇委員：子どもたちにわかってもらえるような短い表現にするなら、例えば、「多摩市みんなの文化芸術未来プラン」とか「まちづくりプラン」とした場合は、副題を「文化芸術で未来をつなぐ」とか「未来をひらく」という表現はどうか。

◇委員：条例の目的を見ると「市民が心豊かに暮らせる地域社会の実現に寄与する」と書いてあるので、そういう文言も入れても良いと思う。
文化芸術をとおしてそういう暮らしが実現できるという期待を込めた表現だと良い。

◎会長：いくつかキーワードが出てきた。「振興」という表現を変えるかどうかも含めて、事務局で検討してほしい。副題についても、ビジョンの目指す姿や条例の前文は苦労して色々な要素を含めて作ったので、それらも勘案して事務局で検討してほしい。

概要版よりもさらにシンプルなわかりやすい版を使って子どもたちに周知していく際も、計画名や副題は重要になると思う。今日以降も何かアイデアが浮かんだら、事務局に提案してもらいたい。

◎会長：その他、原案、概要版、名称など気付いたことがあればご意見等あるか。

◇委員：p112」市内各所における文化活動の状況の中に「Poco Poco Festa」は入っているか。

●事務局：p.13 に入れている。

◇委員：p.13 で「市内 NPO 法人と市の児童館職員有志が協力して『Poco Poco Festa』を開催し、」と記述があるが、「共催」に見えてしまう。「協力して」と

	いう表現を活かすなら、主催は「NPO 法人多摩子ども劇場」で、地域の事業者、学生等色々な方が関わっている要素を書いていただけると良い。 ●事務局：記述の表現は検討する。 ◇委員：子どもたちのための取組の一つが「Poco Poco Festa」だと思うので、子どもたちのイベントの様子が写真で入っていると良いのではないかな。 ○副会長：子どもの写真は許諾が難しい。 ●事務局：Web サイト等で公開している写真等から調整したい。 ◇委員：p.21 の多摩市みんなの文化芸術ビジョン 報告の写真について、目立ちすぎかもしれない。 ●事務局：写真の大きさについては、少し控えめにする。
次第 4 今後のスケジュール	●事務局：今後のスケジュールについて説明を行った。 ◎会長：事務局の説明を受けて、ご意見等あるか。 意見なし
委員からのコメント	◎本日で会議は終了となる。委員の皆様、くらしと文化部長、多摩市長から一言ずついただきたい。 ◇青木委員：多摩市文化団体連合も 50 年を越えて活動してきた。文化に対する考え方も変わってきたなと感じた。日常生活全ての中に、文化に囲まれていると言えるぐらいになってきた。参加の輪を広げて、今後も努力をしたい。 ◇岩佐委員：今日で終了が名残惜しい。色んな角度で見る事の大切さを感じた。「多摩市子どもみらい会議」の話を紹介したが、イメージしていることを言語化することの大切さを感じている。「多摩市民一人一人がまちづくりに参加しているという意識を持って行動に移そう。」ということの小中学生が考えた。文化芸術においてもその通りだと思うので、これからは何ができるかを考えて、少しでも皆さんと豊かな心の交流ができるよう生活していきたい。 ◇沖田委員：多摩センターを中心に地域の活性化の活動をしている。多摩センター、多摩ニュータウンはインフラがしっかりしていると感じる。文化芸術面においても、パルテノン多摩や周辺施設、地域活動団体などのインフラをもっと活用していけば、豊かな社会になると信じている。 ◇柏井委員：多摩センターで生まれ育った。社会人になってから約 20 年にわ

たり芸術文化に関わっており、生まれた街の芸術文化を振興していく計画に関わられて嬉しく思う。芸術文化には人の心を豊かにして、交流を生み地域を活性化させていく力があると感じる。計画でまちづくりや若者・子どもにスポットが当たることが良かったと思う。子どもとのコミュニティスペースやフェスティバル等、多摩市での自身の活動も引き続きこの会議を超えて取り組んでいきたい。

◇高橋委員：出来上がって 70 ページを越える大作になった。パルテノン多摩や財団の名前を多くの箇所で記載してもらった。次期の事業計画を作る中で、一つでもこの計画に寄与できる事業を企画したい。来月、企画している演劇公演に多摩市内の高校生を無料で招待する。有識者会議の委員との連携が大事だと思っているので今後ともご支援いただきたい。

◇春田委員：昨日「Poco Poco Festa」の打ち合わせをして、子どもたちのために文化芸術の機会を広げていこうと共通認識を確認したが、暮らしの中で文化やアートが無い家庭もある。この計画がそういう子たちの支援につながれば良いと思う。多摩市で育った若者が色々なところで活躍している。あるタップダンサーの若者は、パルテノン多摩や市内各所でも公演しているので、ぜひ興味がある方は足を運んでいただきたい。

◇三浦委員：京王電鉄の統合報告書でもまちづくりを経営の中心としている。自身の部署はどちらかというとソフト面のまちづくりで、人と地域間のつながり創出に取り組んでいる。多摩市には我々の会社の本社も所在しており、なおかつ今後、リニアの関係もあり、相模原線沿線が活性化されると思う。実務の面でも協力していければと思う。

◇横溝委員：有識者会議の委員の中でも一番若いかもしれない。このような会に参加して勉強になった。多摩ニュータウンのまちづくりに関わる中で、文化芸術を生業としている人たちをいかに支援していくかというのがとても大事な視点だと思う。この計画にもアーティスト・クリエイター等の活動支援の内容が入って良かったと思うので、計画を実現してもらいたい。

○副会長：原案の「本市における文化芸術に関する特徴」はとても読みごたえがあり、多摩市のポテンシャルの大きさを感じた。様々な意見をまとめた事務局は大変だったと思う。ただ、まだまだ、作品やイベントを行うことが文化芸術施策と受け止めてしまう人が多い。イベントをやることが文化芸術ではなくて、文化芸術活動によって生み出される人と人とのつながりが文化、体験した後の語りあいなどで認識されることが文化の本質だということを理解してもらえよう、この計画がきっかけになっていくと良い。

◎会長：パルテノン多摩の改修時の委員会から、条例、ビジョン、計画作りまで関わってきた。最初から最後まで関わったのは初めてで、多摩市民では

ないが、市民の皆さんといろんな意見交換ができ、市民の一人だと思えるようになった。多摩市は市民参加のまちづくりを積極的に進めてきた経緯があるので、今後はどのように発展していくかを見ていきたい。

●くらしと文化部長：本会議体の夜間開催が連続し、委員の皆様にはご負担をかけたことをお詫び申し上げます。皆様のお言葉を聞いていて、私なりにまとめると、「つながり」、「日常生活の中で文化というものに私たちは囲まれて生活している」、「まちづくり」、そうした言葉が共通で出てきたと思う。

これまで仕事をしてきた中で、色々な面で、つながりという事が大事だと、最近感じる。この計画を策定する中においても、それぞれ立場も違うが、感じることは皆さん同じ思いでいるのだと思う。同じ目的に向かって、意見を様々なお立場でそれぞれの視点で交わして頂いたおかげでこの計画が出来たのではないかなと思う。

少し地味で、文化芸術の計画として目立つものは無いかもしれないが、ヒアリング、アンケート等で色々な市民、子どもたちの意見を聞いて、この有識者会議、庁内会議体の意見も踏まえて、大変そうだと思う課題についても包み隠さずとらえ、施策に繋げて行こうとする覚悟は示されている、計画にはなっていると思う。

「引き続き」というお言葉も沢山いただいている。この計画は行政だけで出来る計画ではなく、この街で暮らし、働き、また活動している一人一人の力が必要となるので、これからもお力を貸して頂ければと思う。

●市長：初回の時にもお話させて頂いたが、伊藤会長には大規模改修の前になどどのようなパルテノン多摩をつくっていくのかという議論から関わっていただき、多摩市みんなの文化芸術条例を市議会にも諮った。まさにこの計画がその条例を体現していると思う。

先程、横溝委員がお話しされていたが、ニュータウンの中で店を構えながらそこで、空き店舗、空きスペースでアートの活動をされているのを見て、ニュータウンというのはもともと実験都市だったという事も思い出した。この場で色々な議論を重ねて頂いた結果が、こうして計画となって実を結んでいくことを私も嬉しく思っている。

青木委員が文化団体連合の理事長として加わって頂いているが、先日の話の中で、一つの扇子が舞踊の中で色々な表現をすると聞いた。会場にいた他の人にも扇子一つが多様なはたらきかけをしていくことを伝えていた。そのように文化芸術は奥が深く、今大河ドラマでも題材になっているが、江戸時代に遡れば、町人文化、庶民の文化の中で、実は能であったり歌舞伎であったり広がってきて、それは村の中でも続いている。そのような事を私が感じる事が出来たのは、今年も正月に学校で行われたどんど焼きに参加したことにある。東落合小学校では、お囃子を呼んできて、地域の伝統文化とどんど焼きを組み合わせている。地域の文化をどう発展させていくのか、その延長線上の中に、道路、お店、公共施設、色々な物が文化の源になっている。その事に気づかされたのが、「TAMATAMA FESTIVAL」だった。主催

	者の柏井委員は多摩ニュータウンで生まれて育った。ニュータウンというのは、従来の文化だけでなく新しいものが生まれ育てることが出来る街だと思う。 三浦委員の京王電鉄さんも、昨年、京王相模原線が開通して永山駅、多摩センター駅が 50 年ということで一緒に色々なイベントをやって頂いた。ニュータウンだけでなく、今年は聖蹟桜ヶ丘駅が開業して 100 年になる。その発展の結果、多摩にはパルテノン多摩の大ホールがあり、ニュータウンに住む皆さんが合唱祭、演劇フェスティバル、あるいは人形劇など様々な活動をしてきた。こうした集大成の中で多摩市みんなの文化芸術条例が生まれ、本計画が生まれてきた。地域の学校を通して子どもたちが文化芸術に触れる機会が増えている。多摩にとって大切な事だと思う。 1 月 9 日の新聞の中でも近隣センターの商店街で著名な和楽器アーティストが新たな活動を始めている記事が紹介された。今春の開店を目指し、倉庫だった場所を生演奏も楽しめるカフェ兼バーに改装中で、二階で家族と暮らしている。古い建物はレトロで魅力的と話されていて、近年諏訪永山団地に引っ越してこられた。「当初は仮住まいの予定だったのだが、家族も団地暮らしが気に入って、緑も多く遊歩道も整備されている、外で遊んでも安心して友達もすぐできる多摩市をとて気に入り入れた。ただ飲食店が少なく、子育て中の親や仕事帰りの人が立ち寄れる店がほとんどない。以前から生演奏と食事が楽しめる場所があればと思っていた。そこでこの取り組みを始めた。店では、地元の野菜を活用したいと考えている。かつてカフェを営んでいた人、いつか店を持ちたいと思っている人を呼び、曜日ごとにシェフを替えて異なる料理を提供する計画だという。地元で人と繋がる中で、自然に着想したという。商店街にはこの数年で若手デザイナーたちも入居した。面白い人が集まる多摩エリアのハブになる、海外にも紹介したい、と夢が膨らむ」と語っておられる。 これを読んだ時に、まさに、今日皆様が提言されていることが、ニュータウンで、計画の中身を実現しようとしている人達がいるということを感じて、嬉しくて皆さんに披露させていただいた。 今日頂いたご意見を踏まえて、これからも子ども達や若い人がこの街に住んでいて良かった、この街に住んだからこそ文化芸術に触れる機会があったという街に是非したいと思う。 ◎会長：以上で本会議を終了する。
--	---